

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



野間の大ケヤキ。ヤドリギが目立つ。夏にはアオバズクが営巣する。樹齢300年以上、一説には千年とも？

Contents

- 緑の地球環境センター始動間近！ P 2
- 炭づくりに参加して P 2
- 『大同・緑化協力最前線』報告 P 2
- 春の黄土高原ワーキングツアー参加者募集 P 3

2011.1

特別編集

137

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球環境センター始動間近！

GENの新しい緑化協力拠点の名称が決まりました。みなさんから思いや願いを込めたご提案をたくさんいただき、運営懇談会のメーリングリストでもいろいろ意見が出ました。最終的には世話人会で議論し、『緑の地球環境センター』となりました。

苗圃をはじめ、生態植林見本園や有用植物見本園（薬草・薬樹）をつくる

うとはりきって計画をたてています。さしあたって必要な管理棟、井戸、苗圃、電力関係の整備・建設費の寄付を、400万円を目標に募っています。1月8日現在、131人／団体から、2,974,846円のご寄付をいただきました。目標額まであと4分の1、募金はひきつづき受け付けていますので、ご協力をお願いいたします。



炭づくりに参加して～GEN 自然と親しむ会報告

宮本 敏幸 (GEN 会員)

11月20日、気持ちのよい秋日和に、川西市一庫ダムの国崎せせらぎ広場で12人が参加して2回目の炭焼きをおこないました。きれいな紅葉を眺めながら河原の流木などを炭に焼き、焼き芋や焼きりんごを楽しみました。

無煙炭化器を使って、初谷溪谷・大同等に続いて3度目の炭作りに参加しました。この炭化器は、材料は現地で調達できるし、乾燥材ならほとんど煙は出ないし、さほど手間暇はかからないし、好みで焼き芋などもできるし、街中のコンクリートジャングルに住む者にとっては普通なら無理と思われる炭を、自分で手作りできる便利グッズで感心しています。

あちこち色づいた能勢の里山、一庫ダムの広場で流木を集め、のこぎりで適当な長さに切り、細い木を下に、上に太い木で焼きました。ころあいをみて、濡らした新聞紙とアルミホイルで包んださつま芋・じゃが芋・りんごなども焼き、ハオチー！でした。

できた炭を、今回は少しもらって帰りました。私は、GENの事務所から10

分くらいの所に住んでおり、隣接する小公園で、28人が、1坪くらいの範囲で、いろいろな花を育てています。まず

は、家内が来春に植える予定の菊の所に、撒くことにしています。

菌根菌増殖運動に、乞う、ご期待！

炭焼きの後、近くの国指定天然記念物の能勢町の『野間の大けやき』を、前中顧問の講義付きで見て回り、寄生植物の切除の話など、植物の不思議さと面白さに触れることができました。今年の短い秋の中、心、豊かな実りの晩秋となりました。謝謝。

GEN 報告会「大同・緑化協力最前線」をきいて

前川 宏 (GEN 世話人)

11月29日、大阪市立総合生涯学習センターで、報告会「大同・緑化協力最前線」が開かれ、38人が集まりました。GEN顧問の前中久行さんがそれぞれ大同の最新状況をまじえた報告をおこないました。

「大同・緑化協力最前線」と銘打った報告会が11月にもたれました。

はじめに前中久行顧問の報告がありました。

GENが取り組んでいる「人間活動によって砂漠化した土地の緑の回復」と「砂漠緑化（自然破壊）」との違いや森林成立の自然条件、里山などについての分かりやすい基礎的な解説があり、活動を理解するための基礎固めが図られました。

南天門自然植物園は放牧と薪を採取する人間を排除することにより、驚くほど急速に自然が回復しているところです。植生回復の遷移やスピード、個々の樹木の成長を詳しく調べるための毎木調査の方法が写真で詳しく紹介されました。研究というのは細かく地味な

作業だなと感じました。変化を探る研究ですので継続が何より大事なのだとわかりました。

モンゴリナラ型からリョウトウナラ型へと葉を1列に並べた写真が提示されました。変化に切れ目がないのです。どうしても線引き（同定）できないとのこと。学問の世界に、そんなことがあると知り、驚きました。

次の報告は小川真顧問からでした。大同では小川先生の指導で、松の育苗に菌根菌を利用し、大きな成果が挙げられていることはよく知られていますが、次に取り組みは始めているのが炭の利用です。炭と肥料を投入したサイズは誰の目にも一目で分かる効果（葉の重さ4倍）が現れていました。菌と炭と肥料の組合せで大変な効果が出る可



河原の流木が炭になり、煙を肥やす。

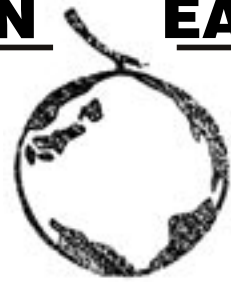
2011 春の黄土高原ワーキングツアー参加者大募集!

すっかり緑が濃くなった南天門自然植物園が春のツアーの定番でしたが、最近では交通渋滞に悩まされることが多くなってきました。そこで、今年は北部の天鎮県を訪れることにして、時期を少し遅らせました。農村での植樹や交流に時間をかけようと考えています。

- 日程：2011年4月9日(土)～15日(金) 6泊7日
- 費用：135,000円(国際航空運賃、中国国内の交通費/食費/宿泊費を含む。GEN年会費〈一般=12,000円、学生=3,000円〉、燃油特別付加運

賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない) ※中国国際航空利用 ※関西空港発着 ※羽田発/成田着便利用希望の方は航空運賃差額(25,000円程度)が別途必要です。

- 定員：35名(定員に達し次第締め切ります)
- 最少催行人数：12人
- ★参加ご希望の方は、まずGEN事務所までご連絡ください。(株)マイチケットから資料をお送りします。



助成が決まりました

日中緑化交流基金より、大同市の黄土丘陵における緑化事業として1,090万円の助成が決まりました。同基金の発足から10年の記念の年です。

新リーフレットをご利用ください!

大同にも開発への波が押し寄せて、昨年は激動の年となりました。GENの活動も影響を受けて新しい一歩を踏み出すことになったのを機に、リーフレットを新しくしました。会報に同封しますので、GENの活動をひろげる一助に、ぜひご利用ください。また、追加をご希望の方は、GEN事務所までご連絡を。

使用済みインクカートリッジを集めています

ヤマダ電機とジット(株)が『使用済みインクカートリッジの回収キャンペーン』をおこなっています。回収したカートリッジ一個につき10円がボランティア団体に寄付され、GENにもJANICの「NGOサポート募金」を通じて寄付されます。

- 1) ヤマダ電機店頭に設置された「ジット回収ボックス」に使用済みインクカートリッジを入れてください。
- 2) 主旨に賛同する方には、「ジット回収ボックス」(返送用着払い伝票添付)が無償で送られます。下記までご連絡ください。なお、GEN事務所にも設置しています。

ヤマダ電機 tel.027-345-8857

ジット(株) tel.055-280-8105

詳しくは下記HPをご参照ください。

<http://www.yamada-denki.jp/csr/eco/03.html>

<http://www.yamada-denki.jp/csr/eco/img/inkcartridge2.pdf>

GEN自然と親しむ会

有機農業見学会～

持続可能な暮らし方に向けて

神戸市西区で有機農業を営む農家を、本野一郎さんの案内で見学します。

- 日時：2011年1月23日(日)10時30分～15時ごろ
- 集合：神戸市営地下鉄「伊川谷」駅に10時30分
- 案内：本野一郎さん(NPO法人兵庫県有機農業研究会理事長)
- 定員：20人(先着順)
- 参加費：200円(別途現地乗合燃料費)
- 申込み：1月19日までにGEN事務所まで

ワン・ワールド・フェスティバル ボランティア募集

2月5日(土)、6日(日)の2日間、大阪国際交流センターで開催されるワン・ワールド・フェスティバルに、今年もGENは出展します。NGO紹介ブースで、活動紹介をはじめ、絵はがきや切り絵などの販売をおこなう予定です。昨年は多くの方がブースを訪ねてくれて、交流の輪がひろがりました。

当日のボランティアを大募集しています。お手伝いいただける方、GEN事務所までお知らせください。なお、時間、場所など詳細は4ページをご参照ください。

ノ性能があります。害の出ている植物もありました。乾燥したアルカリ土壌での炭利用の試みは始まったばかりです。

小川先生は炭を使って松林を再生する「白砂青松再生の会」会長さんです。その先生が「過剰な炭焼きは森林破壊につながる。韓国で緑化の責任者が炭焼窯を破壊して回っただけで、緑化が進み表彰された」と話されました。炭焼きの功德の話が出るのかと思っていたので目から鱗。キノコの話やブナ枯れの話とか、報告の後での質疑も盛り上がり、内容が豊かな、贅沢な学習会

でした。

20年前に協力をはじめたころは「コーヒー1杯分で300本の苗木が買える」というような単純な協力でした。しかし、今では「多様性のある森林はどのようなすれば回復するか。それはどれほどのCO₂を固定するか」とか「菌根菌と炭と肥料をどのように組合せれば環境を保護しながら増産ができるか」など、地球環境問題の先端をいく協力が発展してきていると感じました。「大同・現地からの報告」でなく「大同・緑化協力最前線」となっていたのも納得できました。



感じる・ふれあう・助け合う
世界につながる国際協力のお祭り
ワン・ワールド・フェスティバル

国際協力 NGO・NPO や JICA などの活動紹介から、世界各国の料理を食べられる模擬店（マイ食器持参歓迎）、映画上映、有名人のトークショーなど、もりだくさん。GEN もブース参加します。

●日時：2月5日（土）10時～17時、6日（日）10時～16時

●場所：大阪国際交流センター（地下鉄「谷町九丁目」駅、近鉄「大阪上本町」駅）

●主催・問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会（〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 2階（特活）関西国際交流団体協議会内 tel. 06-4395-1124 fax. 06-4395-1125 e-mail : onefes@interpeople.or.jp http://www.interpeople.or.jp/owf）

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

第14回六甲奨学基金のための 古本市

六甲奨学基金は、兵庫県下の留・就学生への奨学金や日本語ボランティア教室を支えています。古本市は、基金の募金活動の一環です。

●受付期間：3月1日～31日まで（この期間以外は受け付けられません）

●送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・汚れ・破れのひどいものは不可。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、文学全集、百科事典等は不可。
- ・CDも集めます（Video、TV番組を録画したDVDやコピーCDは不可）。
- ・お送りいただいた本は返せません。
- 送り先・問合せ先：（財）神戸学生青年センター古本市係（〒657-0064

神戸市灘区山田町3-1-1 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878 e-mail : info@ksyc.jp http://ksyc.jp

★六甲奨学基金のための第14回古本市
●3月15日～5月15日まで毎日開催

編集後記

今回の会報は、新リーフレットの作成と並行で作業したため、減ページになりました。ご了解ください。

うさぎ年にタイガーマスクとはこれいかに？ 矢吹丈まであらわれたようですが、そういえば月光仮面はどうしたのかな、とググってみると、なんと、今回で37回目となる寄付が年末にあったそうです。施設に暮らす子どもたちがピカピカのランドセルを背負って入学する風景も、37年とはいわなくても、来年も再来年もつづくといいなあ。タイガーマスクがんばれ！ あ、あしたのジョーもね。 （東川）